

令和 5 年 4 月 5 日現在

機関番号：23201

研究種目：研究活動スタート支援

研究期間：2019～2021

課題番号：19K24168

研究課題名（和文）コミュニティに基づく在日外国人妊産婦への支援プログラムの開発

研究課題名（英文）Development of the community support program for expectant and nursing foreign mothers in Japan

研究代表者

西村 香織（Nishimura, Kaori）

富山県立大学・看護学部・助教

研究者番号：20846133

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 1,900,000円

研究成果の概要（和文）：研究目的は、在日外国人妊産婦のコミュニティ内の情報ネットワークや問題解決の実態を明らかにし、コミュニティを対象とした支援プログラムを開発すると同時に、コミュニティに基づく看護者向けの支援プログラムを開発することである。エスノグラフィーの手法を用いて、10名の在日外国人女性とそのコミュニティに参加観察及びインタビューを行った。

分析結果より、在日外国人女性にとって妊娠・出産・育児の戸惑いは、妊婦健康診査での医療システムの違いであることや、母国出身者のコミュニティに支えられている一方で育児の孤独感は解消されていないことが分かった。結果をふまえ、在日外国人妊産婦への支援プログラムを作成した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本邦で妊娠・出産を経験する女性が増加する中、言語・コミュニケーションに特化した支援は行われているが、異文化理解や妊娠・出産・育児の支援者となる母国のコミュニティの実態をふまえた支援は明らかとなっていない。本研究では在日外国人女性とそのコミュニティの実態を明らかにした上で支援プログラムの作成を試みた。母国のコミュニティを通して情緒的支援、文化の伝承は行われているが、医療システムの違いによる戸惑いや育児の孤独感は解消していない。妊娠期からの十分な説明や看護者との関係性の構築、コミュニティ拡大への支援により、在日外国人女性の安全で安心した医療の確保および、育児の孤独感の軽減につなげることができ

研究成果の概要（英文）：The purpose of this research is to reveal the reality of the information network and problem-solving within the community of expectant and nursing foreign mothers in Japan, develop a community support program, and simultaneously develop a community support program for nurses. Using the ethnography method, participant observation and interviews of 10 foreign women and their communities in Japan were conducted.

According to the analysis results, while the initial confusion that foreign women may have regarding pregnancy, birth, and child-rearing, as well as the differences in the medical system of pregnancy checkups, may ease due to the support of those from the same country, it was clear that the sense of isolation they feel during the child-rearing stage has not been resolved. Based on these results, the support program for expectant and nursing foreign mothers in Japan was created.

研究分野：助産学

キーワード：在日外国人女性 支援プログラム 経験 コミュニティ

## 様式 C-19、F-19-1、Z-19（共通）

### 1. 研究開始当初の背景

今日、本邦における在留外国人数は増加し、270万人を超え過去最高となった。中でも、アジアからの在留外国人数が大多数を占め（総務省，2018）、本邦で妊娠・出産・育児を経験する在日外国人女性も増加している。このように、本邦での国際化が進む中、かつて大学院教育の中の高度看護学と位置づけられていた外国人に対応する国際看護は、看護師の基礎教育としての位置づけに変化してきた（大橋ら，2018）。看護学教育モデル・コア・カリキュラム（文部科学省 高等教育局，2018）は、国際社会・多様な文化における看護職の役割として多様な文化を持つ人々の支援に必要な能力を目標に掲げている。助産師教育においても、日本語能力が十分ではない妊産婦を想定した場合のコミュニケーション演習（嶋澤ら，2017）が着手されつつあるが、文化を考慮した看護教育は確立されておらず、在日外国人妊産婦への看護についての理解不足がある（豊岡，2015）。

在日外国人の保健医療に関する課題として中村（2003）が「言語・コミュニケーション」「保険・経済的側面」「保健医療システムの違い」「異文化理解」を挙げており、これらの課題に対し、臨床では在日外国人妊産婦に対し、通訳との連携による言語への支援が行われている。しかし、妊娠・出産・育児における「保健医療システムの違い」「異文化理解」の具体的な支援内容まで明らかにした先行研究は少ない。また、妊婦健康診査未受診や飛び込み出産（井上ら，2005；菊池ら，2003）、異文化の中での葛藤や戸惑い（寺岡ら，2017）は解決されておらず、在日外国人女性の妊娠・出産・育児における安全で安心した医療が確保できていない現状と言える。さらに、在日外国人妊産婦の特徴として生育過程において培われた自国の文化と、日本の文化を持ち、二国間文化の中のジレンマ（鶴岡，2008）を経験している。特に妊娠・出産・育児は文化の影響を強く受けるが、文化ケアにおいて最も重要な個人の所属する文化、つまりコミュニティ内部の実態を明らかにした看護については研究が行われていない。研究者は妊娠、出産、育児にはコミュニティの存在が大きく、コミュニティの情報が最重要視されることを明らかにした（西村ら，2019）。以上より、安全で安心できる医療の提供には、コミュニティと看護職双方に働きかけることが重要である。

### 2. 研究の目的

在日外国人妊産婦のコミュニティ内の情報ネットワークと問題解決の実態を明らかにし、コミュニティを対象とした支援プログラムと同時にコミュニティに基づく看護職向けの支援プログラムを開発することを目的とする。

### 3. 研究の方法

#### (1) 研究参加者

研究参加者の選定は、研究協力施設である X 県の在日外国人が多く受診する一次医療機関 2 か所に依頼した。研究協力の意向があった研究参加候補者に、研究者が改めて文書と口頭で研究協力を依頼し、同意の得られた在日外国人女性と所属するコミュニティのメンバーを対象とした。

#### (2) データ収集方法

データ収集はエスノグラフィーの方法を参考に実施した。フィールドワークの期間は 2019 年 6 月～2020 年 6 月であった。研究参加者に対し、参加観察およびフォーマルインタビューを行った。フォーマルインタビューは、在日外国人女性 1 名と所属するコミュニティのメンバーを 1 ケースとし、1 ケースずつ行った。インタビューの時期は妊娠期、出産後早期、育児期の計 3 回であった。場所は家庭訪問やコミュニティの集まる場とした。新型コロナウイルス感染症のため、2020 年 4 月～6 月は 3 名の産後のインタビューを電話による調査に変更した。妊娠・出産・育児で「聞きたいことや困ったこととその解決方法」、「相談する人や頼りにしている人」、「日本との文化の違いで困ること」をインタビューガイドとして、研究参加者に自由に語ってもらった。研究参加者の日本語の理解度に応じて、通訳同席のもとインタビューを実施した。研究参加者の承諾を得て面接内容を IC レコーダーに録音し、参加観察の内容はフィールドノートに記載した。

#### (3) データ分析方法

インタビューから得られた逐語録とフィールドノートをデータとした。得られたデータは、研究対象者 1 名ずつのデータを言葉や文章、段落など 1 つの意味が読み取れる最小単位とし、解釈を行いコード化した。次に全員から得られたコードを共通の意味内容をもつコードで集めてサブカテゴリーを形成し、さらに抽象度をあげ、カテゴリーとした。最後に各カテゴリー間の関係性と、各カテゴリーの内容を用いてテーマを導き出した。

#### (4) 倫理的配慮

##### ①参加の任意性について

研究参加者に、研究参加は自由意思に基づき、研究協力撤回への自由意思・中断による不利益は生じないことを口頭及び書面で説明し、同意書に署名を得た。研究説明には、対象者の日本語

の理解度に応じて通訳同席とし、母国語および英語表記の同意書を用いた。

②個人情報の保護について

研究の公表に際しては個人や組織が特定される情報は提示しない。

#### 4. 研究成果

##### (1) 研究参加者

10名の在日外国人女性から同意を得た。国籍別ではベトナム、中国、フィリピン、モンゴルが各2名ずつ、ロシア、アメリカが各1名ずつであった。日本語能力は7名が堪能で3名が全く理解できないであった。

##### (2) 分析

在日外国人女性の日本での妊娠・出産・育児の経験として26サブカテゴリーから9カテゴリー、3テーマが抽出された。

##### テーマ1【先進国である日本での妊娠・出産・育児への希望と現実の戸惑い】

13サブカテゴリーから「医療サービスや医療水準の良い日本での出産に希望を持ち出産を決めた」、[妊娠・出産・育児の医療システムや医療内容の母国との違いに戸惑う]、[日本の医療者と分かり合えず日本での出産を後悔する]、[育児や日常生活のサポートは夫のみである]の4カテゴリーが抽出された。これらの4カテゴリーを統合して【先進国である日本での妊娠・出産・育児への希望と現実の戸惑い】が抽出された。在日外国人女性は、先進国である日本と母国の医療水準を比較し、出産時に一律で受けられるサービスや妊婦健康診査での超音波検査の回数などから日本での医療に期待し出産を決めた。しかし、母国では胎児奇形の早期発見のために、全妊婦に行われている超音波検査や採血が日本では希望者にしか行われないこと、体重管理、分娩様式の選択基準の違い、保健センターの利用など、母国との医療システムの違いに戸惑っていた。戸惑いの中、妊婦健康診査で聞きたいことがあっても、最低限しか医療者に聞けない状況や、出産時に看護師が寄り添ってくれなかったと感じたことで、日本での出産を後悔していた。さらに、育児で困った事を相談できる専門家がおらず不安な状況でもあった。また、日本での直接の支援者はほぼ夫だけであることから、母国と同様に実母にもっと育児を助けてほしいと感じていた。

##### テーマ2【母国のコミュニティを支えに乗り越える】

10サブカテゴリーから、「情報はインターネットや母国の友人、家族から得る」、[日本の生活は孤独である]、[心の支えは家族と母国のコミュニティである]の3カテゴリーが抽出された。これらの3カテゴリーを統合して【母国のコミュニティを支えに乗り越える】が抽出された。日本で妊娠・出産・育児の情報はインターネットやYouTubeからも得るが、フェイスブックを活用して同じ境遇の人とつながり、同じ国籍の人からの情報を求めている。在日外国人女性は、日本では、母国の家族がそばにいないさみしさや日本人との価値観の違いによる窮屈感から、孤独を感じながら生活していた。特に日本人との交流の持ち方の違いが育児中の母親にとってはさらに孤独を感じる環境であった。このように孤独な生活の中でいつも身近にいる家族と母国のコミュニティが心の支えとなっていた。いつも離れている母国の家族を思い、母国の家族への思いが日本で生活することの原動力となっていた。

##### テーマ3【日本の生活様式を取り入れながらも母国の文化を大切にしている】

3サブカテゴリーから「母国の文化を大切にしている」、[日本の生活様式を取り入れている]の2カテゴリーが抽出された。これらの2つのカテゴリーを統合して【日本の生活様式を取り入れながらも母国の文化を大切にしている】が抽出された。日本で妊娠・出産・育児を行う中で、産後早期にシャワーをすることについては日本の慣習を取り入れているが、衣・食・住に関して、基本的には母国の慣習を大切にしながら生活していた。しかし、日本では、母国では当たり前に行われていた妊娠・出産・育児の文化が取り入れられない状況でもあった。

##### (3) 研究結果に基づく在日外国人妊産婦への支援の検討とプログラムの作成

##### ①在日外国人女性の日本の医療システムにおける戸惑いと看護

在日外国人女性は、在日期間が長く就業経験のある女性であっても、ほぼ日本人の友人はおらず母国のコミュニティの中にとどまっていた状況から、妊娠をきっかけに日本の社会との「交流」を持つことになる。そのような状況下で、在日外国人女性の最初の戸惑いは、妊婦健康診査における母国と日本の医療システムの違いであった。在日外国人女性の母国であるベトナムや中国では、18トリソミーや21トリソミー、胎児奇形の早期発見のために重要であり、多くの妊婦が受ける4D超音波検査、NT検査、血清マーカー（白井，2020：于，2013）が日本では希望する一部の妊婦にしか行われないことが戸惑いの1つであった。日本においては胎児の成長、発達を確認する目的の妊娠初期でさえ、ベトナムや中国では胎児奇形を発見する目的で検査が行われることから、検査の目的や考え方そのものに違いがあると考えられた。日本人にとっては受け入れられている一般的な保健医療システムであっても、在日外国人女性の母国の様々な社会的、文化的背景があることを理解し、医療者として十分な説明が必要であったと考えられる。このよう

に、妊娠期から戸惑うことがあっても、在日外国人女性と看護師が話をする機会は少ないまま出産に至っている。これらの経験を通して、在日外国人女性は、日本の医療者の支援は満足出来るものではなく、日本ででの出産は安心できないと感じていた。コミュニティを軸としても、母国と異なる医療システムや医療者との関係性の中で、医療者の十分な関りがなければ、妊娠・出産・育児を安心して行えないことが推察される。よって、看護師は在日外国人女性にとって最初の戸惑いとなる「妊娠期」にもっと十分に寄り添い、信頼関係を築いた上で、出産・育児を支援していくことが重要である。

### ②在日外国人女性の育児における孤独感と看護

在日外国人女性の日本の中でのコミュニティは、夫と日本で生活する両親や親戚、友人をメンバーとする母国出身者のコミュニティであった。つまり、家族と身近な人に限られた範囲のコミュニティであった。また、日本でのコミュニティに加えて、遠く離れていても、母国で暮らす家族や友人のコミュニティも妊娠・出産・育児を支え、情緒的サポート (House, 1981) を行っていた。加えて、中国人女性が、産後の食事や安静に気遣い、一定期間のシャワー浴や歯磨きの禁止 (Yan Qun Liu et al, 2003) などの習慣を大切にするといったように、生活の場は日本であっても、コミュニティの中で母国の文化が伝承されていた。

一方で、家族と身近な人に限られた母国のコミュニティの中での助け合いで、妊娠・出産・育児の困ったことは解決しようとしていたが、日本ででの生活や育児に孤独を感じていた。在日外国人女性は、妊娠するまで就業しており、社会との関りがあったとしても、1名を除いて日本人の友人がいなかったことから、仕事の中でも母国のコミュニティにとどまることが多く、また仕事をしていなければ母国のコミュニティにとどまることが予測される。育児中であれば外出の機会は減少すると考えられ、他者との関係性を広げる方法や場所を知らなければ、コミュニティの中でのみ育児を行うことになる。日本人が作る育児サークルに参加するといったように、周囲からのアプローチもない。したがって、自ら望まなければ、コミュニティを超えた周囲との交流は持てない。このように、母国のように外に出れば家族以外の友人や地域社会の人とつながるといった当たり前の育児環境が日本では行えないこと、つまり社会とのつながりの欠如が育児の孤独感やさみしさにつながっていると考えられる。これらより、医療者には他者とつながる窓口がない在日外国人女性へ、交流のできる場を提供する、家族や身近なコミュニティを超えて、他者と交流できるきっかけを作るなど、日本の地域社会の中でも育児を通してつながりが持てるような働きかけが重要である。

### ③在日外国人妊産婦に対する支援プログラム案

#### 【母子健康手帳交付時の支援】

- ・母子健康手帳は母国語で記載されたものを渡す。
- ・母子健康手帳交付時に母国語で記載された利用できる公的サービスの案内を渡す。

#### 【妊婦健康診査時の支援】

- ・院内にコーディネーターの役割を担う人がいることが望ましい。
- ・妊婦健康診査の初診時に日本の妊婦健康診査で行われる検査や流れの説明を行い、どの程度理解できているかを確認する。
- ・妊婦健康診査で医師や看護師に十分に話を聞ける環境を作る。
- ・医師の診察後に分からないことはないか、他に聞きたいことはないか、看護師が確認する。
- ・言葉の問題に関しては翻訳機能が有効である。
- ・夫が日本人である場合、普段どのような日本語を使ってコミュニケーションをとっているかを確認する。
- ・やさしい日本語を使って話す。

#### 【育児支援】

- ・育児の孤独感に対して集まれる場を作る。
- ・日本のシステムでは新生児訪問が無料であることを伝える (お金がかかると思って受けない人もいる)。

#### 【異文化理解、コミュニティに対する働きかけ】

- ・文化的背景を知った上での支援が必要である (言葉が通じても背景を知らなければ意思は通じない)。
- ・コミュニティに入り込む。医療者に質問してくれたらよいが、在日外国人女性にとってはコミュニティに聞く方が早く、心地よいものと考えられる。在日外国人の集まる場、フェイスブックなどから情報発信できるとよい。コミュニティの中のキーパーソンがどのくらい日本の情報を知っているのかを把握することも有効である。

〈引用文献〉

- 総務省【在留外国人統計（旧登録外国人統計）統計表】  
[http://www.moj.go.jp/isa/policies/statistics/toukei\\_ichiran\\_touroku.html](http://www.moj.go.jp/isa/policies/statistics/toukei_ichiran_touroku.html), 出入国在留管理庁, 2018.
- 大橋一友, 岩澤和子 (2018). 国際化と看護, MCメディカ出版, 大阪.
- 文部科学省高等教育局 (2018). 看護学教育モデル・コア・カリキュラム～「学士課程においてコアとなる看護実践能力」の修得を目指した学修目標：文部科学省  
[https://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chousa/koutou/078/gaiyou/\\_icsFiles/afiedfile/2017/10/31/1397885\\_1.pdf](https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/koutou/078/gaiyou/_icsFiles/afiedfile/2017/10/31/1397885_1.pdf) (mext.go.jp) 2022年5月1日アクセス.
- 嶋澤恭子, 宮下ルリ子, 平田恭子, 奥山葉子, 有本梨花, 松村紀子 (2017). 助産師教育における外国人妊産婦とのコミュニケーション演習, 神戸市看護大学紀要, 21, 87-93.
- 豊岡慎子 (2015). 日本における外国人医療 I -文化間看護の現状と推進に向けて-. 日本大学大学院総合社会情報研究科紀要, 16, 135-144.
- 中村安秀 (2003). 在日外国人子育て支援. 小児保健研究, 62 (1), 193-197.
- 井上千尋, 李節子, 松井三明, 中村安秀, 箕浦茂樹, 牛島廣治 (2005). 外国人妊産婦の「飛び込み分娩」に関する実態調査. 小児保健研究, 534 - 541.
- 菊池信正, 小澤克典, 戸松邦也, 川中子珠紀 (2003). 飛び込み分娩症例の検討. 北関東医学, 53 (2), 157 - 160.
- 寺岡三左子, 村中陽子 (2017). 在日外国人が実感した日本の医療における異文化体験の様相. 日本看護科学会誌, 37, 35-44.
- 鶴岡章子 (2008). 在日外国人母の妊娠、出産および育児に伴うジレンマの特徴. 千葉看護学会誌, 14 (1), 115-123.
- 西村香織, 村田美代子, 岡田麻代, 松井弘美 (2019). 妊娠期から産後1か月までの在日外国人の主観的体験 - 複線径路・等至性モデルを用いて -. 母性衛生, 59, 869 - 877.
- 白井千晶 (2020). アジアにおける出生前検査と障がい観：ベトナム、ミャンマー、フィリピン調査より. 人文論集, 1-27
- 于麗玲, 塩見佳也, 加藤穰, 宍戸圭介, 池澤淳子, 粟屋剛 (2013). 中華人民共和国母嬰保健法にみる「優性優育」政策. 生命倫理, 23 (1), 125-133.
- House JS. (1981). Work stress and social support. Addison-Wesley Publishing Company, pp22-30.
- Yan Qun Liu RN, PhD, Marcia Petrini RN, PhD, FAAN, MPA, Judith A. Maloni PhD, RN, FAAN (2015). “Doing the month” : Postpartum practices in Chinese women, Nursing Health Sciences, 17, 5-14.

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計1件（うち査読付論文 1件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 西村 香織, 三加 るり子, 工藤 里香, 村田 美代子, 小林 絵里子, 松井 弘美	4. 巻 23
2. 論文標題 在日外国人女性の日本における妊娠期から育児期までの経験	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 日本母性看護学会誌	6. 最初と最後の頁 39-46
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.32305/jjsmn.23.2_39	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計4件（うち招待講演 0件/うち国際学会 2件）

1. 発表者名 Kaori Nishimura, Hiromi Matsui, Ruriko Sanga, Miyoko Murata, Rika Kudo
2. 発表標題 Pregnancy, delivery and childcare services for Vietnamese women in Japan: an ethnographic study
3. 学会等名 Transcultural Nursing Society Conference in Japan 2020（国際学会）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Kaori Nishimura, Hiromi Matsui, Rika Kudo, Ruriko Sanga, Miyoko Murata
2. 発表標題 Pregnancy, delivery and childcare services for Chinese women in Japan: an ethnographic study
3. 学会等名 Transcultural Nursing Society Conference in Japan 2020（国際学会）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 西村香織, 松井弘美, 三加るり子, 村田美代子, 工藤里香
2. 発表標題 エスノグラフィーの分析から見る在日ベトナム人女性の妊娠・分娩・育児
3. 学会等名 第12回文化看護学会学術集会, 2020
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 西村香織, 松井弘美, 工藤里香, 三加るり子, 村田美代子
2. 発表標題 エスノグラフィーの分析から見る在日中国人女性の妊娠・分娩・育児
3. 学会等名 第12回文化看護学会学術集会, 2020
4. 発表年 2020年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関